Jスポ 目指せ！「箱根」の頂点

城西スポーツ

発行所
〒350−0295
埼玉県坂戸市けやき台1−1
城西大学

いよいよ「箱根」が迫ってきた。城西大学男子駅伝部は、新春の1月2〜3日に東京―箱根間で行われる第87回箱根駅伝に出場する。8年連続の栄誉だが、今回はシード権を得ての出場である。田中佳祐主将らメンバー、櫛部静二監督の目標は「3強（早稲田、駒沢、東洋）を崩せ」。前回の総合6位からさらに「上のステージ」を狙う。

「箱根の頂点」を目指すレースはきつい。しかし選手は、夏場には1日30㌔、月間1000㌔を走り込んできた。アップダウンの激しい山道を想定して、大学近くにある鎌北湖周辺の山道を利用した練習も積んできた。選手の顔触れにも期待感が持てる。箱根駅伝を走った経験者が7人。そして、実力ある1年生ランナーの存在があるからだ。

あとはスタートを待つだけだ。沿道で、キャンパスで、栄光を目指す選手たちを壮行し、エールを送ろう。　（写真は第86回大会―シード権獲得の6位でゴールに飛び込む）

第87回箱根駅伝予想メンバー

（裏面に全部員を紹介）

名前	学年
石田　亮	4
甲岡　昌吾	4
田中　佳祐	4
田中　諒兵	4
三田　翔平	4
八巻　賢	4
磯山　貴大	3
大黒　渉	3
玉澤　悠輝	3
田村　優典	3
橋本　隆光	3
山本　隆司	3
石橋　佑一	2
中原　大	2
濱本　栄太	2
松岡　竜也	2
吉元　真司	2
平田　啓介	1
山口　浩勢	1

東京箱根間往復大学駅伝競

過去の成績

第80回	総合19位	11時間42分15秒
第81回	総合15位	11時間22分49秒
第82回	総合11位	11時間16分10秒
第83回	総合11位	11時間20分50秒
第84回	総合11位	11時間20分19秒
第85回	途中棄権	
第86回	総合6位	11時間17分53秒
第87回	?	

総合6位・シード権を獲得した第86回大会のメンバー

往路10位／復路3位（学年は当時）

	名前	学年	区間順位
1区	佐藤真樹	4	8位
2区	高橋優太	4	9位
3区	中原　大	1	18位
4区	橋本隆光	2	3位
5区	田村優典	2	6位
6区	岡本賢治	4	8位
7区	石田　亮	3	2位
8区	恩田峻之	4	11位
9区	田中佳祐	3	2位
10区	八巻　賢	3	5位

8年連続出場おめでとうございます

水田宗子理事長あいさつ

8年連続の箱根駅伝出場、おめでとうございます。学校法人城西大学の創立45周年の今年、男子駅伝部の強者たちは、極寒の箱根路を全力疾走し、シード権を獲得しました。駅伝部の躍進は、野球やサッカー、弓道をはじめ多くのクラブの活躍の刺激になっていると感じます。

創立者水田三喜男は、教育と人材育成こそが国と社会の根本と考え、本学を創立しました。「学問を通しての人間形成」が創立者の掲げた建学の精神です。それはスポーツ・文化クラブの活動にも通じるものでしょう。今回の駅伝部の箱根での目標は「3強を崩せ」と聞いていますが、平常心を忘れずに日頃のトレーニングの成果を発揮してください。

箱根駅伝

正式には「東京箱根間往復大学駅伝競走」。関東地区の大学駅伝チャンピオンを決める大会だったが、1987年に民放テレビが全国生中継を始めて以来、国民的スポーツ大会として定着した。関東学連加盟大学のうち、前年大会でシード権を獲得した10校と予選会を通過した大学と関東学連選抜を加えた計20チームが出場する。計10区間（217.9㌔）で競う学生長距離界最大の駅伝競走である。

第1回大会は、90年前の1920年2月に行われた。「日本のマラソンの父」といわれた金栗四三氏が、「五輪に勝つには長距離、マラソン選手の育成が急務」と発案したのが契機となった。早大、慶大、明大、東京高師（現筑波大）の4校が参加した。第二次世界大戦中に一時中断され、1947年に復活、第32回（1956年）から、現在の1月2〜3日の開催となった。

各コースの紹介

東京・千代田区大手町から、神奈川県鶴見・戸塚・平塚・小田原の各中継所を経て箱根町・芦ノ湖までを往復する。1月2日に東京から箱根への往路（5区間108・0㌔）、1月3日に箱根から東京への復路（5区間109・9㌔）を走る。

1区　日本のビジネス中心地である大手町から鶴見中継所までの21・4㌔。集団の中からどの大学が飛び出すか、仕掛けるか、注目が集まる。

2区　「花の2区」といわれ、各大学のエースランナーが揃う。鶴見から戸塚中継所までの23・2㌔。

3区　湘南海岸の海風を浴びて走る区間。戸塚から平塚中継所までの21・5㌔。最近はエース級を投入するケースが目立つ。

4区　平塚から小田原中継所までの18・5㌔。唯一20㌔を切る区間で、スピードランナーの華麗な走りが見ものだ。

5区　住路のクライマックス。「山登り区間」で小田原から箱根・芦ノ湖を目指す。標高874㍍まで駆け上がる。まさに「箱根の山は天下の険」である。23・4㌔。

6区　これから復路。1月3日、声援を受けランナーは、箱根の湖から一気に小田原市街まで下る。20・8㌔。

7区　いよいよレースも佳境に。各大学の実力・走力の差が鮮明になる。集団がなくなり「一人で走る「孤独のランナー」」が目立つ。小田原から平塚まで21・3㌔。

8区　山から再び海岸線へ。初春の海を横目に走る。最後の5㌔の急な上り坂が選手を苦しめる。平塚から戸塚まで21・5㌔。

9区　横浜駅周辺に詰めかける観衆の大声援が選手の奮起を促す。復路のエース区間だ。戸塚から鶴見まで23・2㌔。

10区　通って大手町へ。銀座、日本橋を経て、各校応援団のエールが聞こえてきた。優勝、シード校に向けて最後の力を振り絞るランナー。鶴見からゴールまで23・1㌔。

箱根駅伝ミニ物語

給水

マラソンでは給水が付きものだが、駅伝で認められたのは、1997年の第73回大会からだった。その前年の72回大会で4区を走った山梨学院大、神奈川大の2選手が途中棄権。選手の健康管理とレース運営上を考え、給水を解禁すべきという声が急浮上し、日本陸連の「駅伝競走規準」の改正で「主催者は、コースの途中で給水を行うことができる」と明記され、給水は正式に認められた。

箱根駅伝では、車で伴走する審判などの関係役員やコーチたちが、選手の体力消耗度や気温上昇などを勘案して、給水を実施している。

伴走

かつては「間車つき自動二輪車」と呼ばれるサイドカーが、箱根駅伝の名物だった。コーチがメガホン片手に乗り込んで、ランナー群の中を移動し、ライバルチームの動向なども探った。サイドカーは、1958年ごろを最後に姿を消し、続いてきたのが、各チームの伴走用に改造したのがジープ。伴走車（監督車）に乗り込んだ監督、コーチが繰り出す独特のかけ声は、沿道の名物でもあった。しかし惜しいながらも全日本では駅伝ができた。前回はいきなり『箱根』だったが今回はしっかりステップを踏めてきている」

——4年間田中選手を育ててくれた櫛部監督への思いというのはありますか。

「6時からの朝練習に、東京都内から車で毎日来てくださったり自分の時間を削ってまで私たちに尽くしてくれている。最後の箱根で最高の結果で恩返ししたい。主将として、チームに何も貢献できていない。箱根ではなんとしても区間賞をとりチームに貢献したい」

——応援してくれる方々にメッセージをお願いします。

「みなさんの応援が力になります。箱根ではお応援よろしくお願いします」

◆　◆

通ってくれた表情から伝統を守る重圧、「最後の箱根」にかける思いと主将としての力強さを感じた。田中主将の最後の走りに期待したい。

田中佳祐主将インタビュー

「区間賞をとり、チームに貢献したい」

——駅伝部の主将として最後の箱根駅伝に臨む気持ちは。

「前回は6位でシード権を獲得し、今回は2年連続でシード権を獲得しなければいけないプレッシャーがあるのでチームをまとめるのが大変でした」

——箱根駅伝でのキーポイントはどの区間となりそうですか。

「やはり、山登りの5区が重要となってくる。あとは、エース区間である2区がポイントだ。ここでレース全体の流れが決まってくるので、一気に流れに乗りたい」

——現段階での調整の状態ですが。

「合宿では選手はみんな緊張感を持ち、自然と闘争心が出てくる。練習の質も上がるので故障には注意して、万全の状態で、試合に臨めるように心がけたい」

——合宿の直前に行われた伯体大記録会の一万㍍や、上尾ハーフマラソンで多くの選手が自己ベストを更新したそうですが、チームの勢いは。

「主力も自己ベストを更新し、9番手、10番手の選手や下の選手も力をつけてきているので、チームは勢いついてきている」

——今年は初の出雲駅伝、全日本大学駅伝に出場し、そして箱根駅伝の三大駅伝に出場するわけですが、二つの駅伝を終えての感想は。

「出雲は惨敗、全日本はシード獲得を目標に臨みましたが結果はあまり良くなく悔しかった。しかし惜しいながらも全日本では駅伝ができた。前回はいきなり『箱根』だったが今回はしっかりステップを踏めてきている」

——4年間田中選手を育ててくれた櫛部監督への思いというのはありますか。

「6時からの朝練習に、東京都内から車で毎日来てくださったり自分の時間を削ってまで私たちに尽くしてくれている。最後の箱根で最高の結果で恩返ししたい。主将として、チームに何も貢献できていない。箱根ではなんとしても区間賞をとりチームに貢献したい」

——応援してくれる方々にメッセージをお願いします。

「みなさんの応援が力になります。箱根ではお応援よろしくお願いします」

◆　◆

通ってくれた表情から伝統を守る重圧、「最後の箱根」にかける思いと主将としての力強さを感じた。田中主将の最後の走りに期待したい。

中断

第二次世界大戦のため、2度にわたって中断された。昭和16年と17年の2年間と昭和19年、20年、21年の3年間だ。昭和16年は、東海道と箱根路が軍需物資の輸送のため駅伝使用はダメという軍の方針で中止に。

だが、「駅伝の灯を消すな。コースを替えてでも」と、関東学連の幹部、OBたちが存続を訴える運動を展開、この結果、昭和16年に2回にわたって、明治神宮水泳場前から青梅の熊野神社までを往復する代替レースを開催した。これが「東京青梅間往復大学専門学校競技能走大会」だが、大会の歴史には正式にカウントされていない。

大会は、昭和18年に第22回が再開されたが、その後は3年連続中断された。戦後、箱根駅伝が再び復活するのは、昭和22年になってからだ。（読売新聞などを参考）

走れ！ 男子駅伝部 3強を崩せ!!

メンバー紹介

（ ）カッコ内は学部学年、出身高・所在地

石田　亮
4年間のすべての想いをぶつける。（経営4、青森山田高・青森）

甲岡　昌吾
最後の箱根なのですべてをぶつける。4年の意地を見せる。（経営4、宇和島東高・愛媛）

田中　佳祐
区間賞をとり、チームに貢献したい。（経営4、大牟田高・福岡）

田中　諒兵
4年生の意地、Bチームの意地を見せる。最後まであきらめずに箱根駅伝を走れるように頑張る。（経営4、新発田中央高・新潟）

三田　翔平
必ず結果を出す。目指せ3位以内!! 個人区間賞!!（経営4、桐蔭学園高・神奈川）

八巻　賢
箱根駅伝で走ることがあの幼い頃からの夢なので、その夢を叶えたい。当日まで、集中して日常生活や練習をし、チームで3位以内を目指して、頑張っていきたい。（経営4、基隆高・山梨）

磯山　貴大
私は中学校3年の時に見た箱根駅伝をきっかけに陸上を始めました。今では、箱根駅伝のキップが手の届きそうな所にあります。今まで応援してくれた人やチームメイト、そして自分の為に3位以内目指して頑張ります。（経営3、鹿島学園・茨城）

大黒　渉
チーム一丸となって前回よりも強くなった城西を見せる。（経営3、大館国際高・秋田）

玉澤　悠輝
3位以内を目指して、学校つながる走りをする。（経済3、市船橋高・千葉）

田村　優典
前回の箱根駅伝8位入賞を上回る。区間賞をとる。（経営3、青森山田高・青森）

橋本　隆光
前回の箱根でシードをとったことがまぐれだと思われないように今回もシードをとり、継続でとっていき伝統をつくっていきたい。また4年生は最後の箱根なのでよい結果で4年生を送り出したい。頑張る!!（経済3、仙台西高・宮城）

山本　隆司
昨年はケガでメンバーから外れてしまったので、今年は必ずメンバー入りし、チームに貢献できるような走りをしたい。（経営3、防府西高・山口）

石橋　佑一
3位以内入賞を目指して、区間上位で走れるようにチームに貢献したい。また、自分の地元で行われている出雲駅伝の出場権も獲んでいるので、箱根でシードをとるだけでなく次のことも考えて走りたい。（経営2、出雲工高・島根）

中原　大
箱根駅伝まで、あと少しだけど、自分の出来ることをして、チームに貢献出来る走りをしたい。（経営2、出雲高・島根）

濱本　栄太
チームに貢献する走りをする。（経営2、防府西高・山口）

松岡　竜也
自分達（城西）が今持てる力を出し切って、城西の最高の結果を残す。（経営2、白石高・宮城）

吉元　真司
昨年は走れず悔しい思いをしたので、今年こそは絶対に走り、チームに勢いをつける走りをできるようにしたい。（経営2、横浜高・鹿児島）

平田　啓介
どこの区間を任かされても、1年生の勢いと力強い走りをしていきたいと思います。目指すは区間1ケタ!!（経営1、八女工高・福岡）

山口　浩勢
五千は、一万はベストを更新しているので、この勢いで走りぬきたい。（経営1、惟信高・愛媛）

そのほかの部員

上野　充（経営4、文星芸大附高・栃木）
遠藤　直洋（経営4、駒澤高・福島）
岡村　直充（経営4、安房高・新潟）
菅原　翼（経営4、酒田南高・山形）
丸尾　康太（経営4、佛教大附高・静岡）
諸橋　弘毅（経営4、城山女子高・埼玉）
山田　万歩（経営4、市船橋高・千葉）
阿部　大介（経営3、倉敷高・岡山）
岡部　省吾（経営3、鹿島高・茨城）
鎌田　亮（経営3、一関学院高・岩手）
木村　謙作（経営3、市船橋高・千葉）
佐藤　慎茂（経営3、福島高・福島）
相馬　悠吾（経営3、花輪高・秋田）
高橋　誠（経営3、浦和実業高・埼玉）
千葉　宏興（経営3、利府高・宮城）
宮元　太志（経営3、小林高・宮崎）
国実　大夢（経営2、倉敷高・岡山）
武田　翔一（経営2、豊田大谷高・愛知）
堀井　敏彦（経営2、田村高・福島）
中村　将太（経営2、丸子修学館高・長野）
長谷川勝士（経営2、春日部共栄高・埼玉）
半谷　迅（経営2、森高高・山形）
山崎　義明（経営2、長野日大高・長野）
渡辺　敦麻（経営2、栗橋高・埼玉）
石川　俊樹（経営1、北海道・山梨）
塚本健太郎（経営1、札幌山の手高・北海道）
佐藤瑛一朗（経営1、防府西高・山口）
三區　直弥（経営1、佐野日大高・栃木）
中山　裕史（経営1、相陵高・千葉）
宮原　亮佑（経営1、栗橋高・埼玉）
梶野　裕也（経営1、倉敷高・岡山）
江本　崇至（経営学部資料・院1、宇都宮城南・山口）
土岡　匠（経営4、栗田西高・静岡）
栗田　駿（経営3、太田一高・茨城）
高野雄太郎（経営3、同村高・熊本）
千葉　広基（経済3、所沢北高・千葉）
木村　博義（経営2、太田一高・茨城）
樋口田勝明（経営2、柴波高・群馬）
森田祐貴子（現代政策2、国本女高・東京）
吉田あずさ（現代政策2、関東六浦高・神奈川）

箱根目指して走り込み

男子駅伝部 最終調整

「箱根」の頂点を狙う男子駅伝部は、最後の調整に入っている。エントリーメンバーも控スウンナーらも高原山をはじめとする寒風を受けながら黙々と練習メニューをこなす。主に城戸キャンパスのグラウンドで四百㍍を10本、二千㍍を5本、三千㍍を1本、といったメニュー。選手は、大学時辺の登りが多いコースを第"走っている。もちろん天下の険・箱根を想定した練習だ。

シード権を取ってからも、練習内容は基本的に変わらなかった（柳沢監督）。春はトラックシーズンに合わせ、スピード強化。夏は長野、北海道等と合宿し、1日30㌔を走り込み、スタミナをつけた。秋は、インカレ（日本学生陸上競技対校選手権大会）などの実戦を通して実力をつけた。

箱根駅伝は今大会も「山登り」（5区）の走りがポイントとなる。箱根と地形が似ている鎌北湖周辺で走り込んだ。大会で「山登り」を試されるランナーは9人。城西の強味は箱根駅伝経験者が7人もいることだ。「山登り」を含め、経験者が精選が各区間に配置される。

大会は「風邪」、監督やスタッフも選手のコンディションにスをつかう毎日が続く。練習面以外でも、タイム計測、給水や箱根に向けて選手をベストな状態にさせるため、生活面から気を配るマネージャーの存在は心強い。

目標は2年連続のシード獲得と「3強（早稲田・駒沢・東洋）」の一角を崩すことだ。最終調整に励む選手らの表情に「決意」がにじむ。

「全日本」で2年連続5位

女子駅伝部 シード権獲得

宮城県仙台市で開催された第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（10月24日・杜の都駅伝）において、城西大学女子駅伝部は、2年連続5位入賞を果たした。女子駅伝部の同大会出場は16回連続12回目だった。

城西大学は1区、2区で7位を維持し、3区山田美紀（経営2）が4位まで順位をあげ、4区も4位と順調な走りを見せた。

シード権獲得の6位以内に入れるかどうかは5区、6区の走り次第になった。5位でタスキを受けたアンカーの谷町衣里奈（経営1）は追いすがる鹿屋体育大学を振り切り、5位でゴールに飛び込んだ。6区間を走り抜けた6人のランナーのうち1年生が4人という若いチームながら、前回より44秒速い2時間9分18秒でゴールした。姉妹校の城西国際大学も健闘したが、惜しくも9位に終わった。

山口秀美主将（経営4、常盤菊川高）は、「今年のチームの目標としていた3位以内には届かなかったが、チーム一丸となり戦うことができた」と話した。

また、箱根駅伝に出場する男子駅伝部に向けてのエールで、手塚朝美（経営4、国学院大付属大高）ら選手は、「初のシード権獲得ということでプレッシャーがあると思いますが、メンバーは心を一つにしてきちんと上を目指して頑張って下さい」と箱根への活躍に期待を込めた。

「男子駅伝部も箱根で快走を」

最低目標 6位上回るように

男子駅伝部 柳沢監督インタビュー

――初のシード権獲得（6位）ということで、プレッシャーのようなものは感じていますか？

「周囲からの期待もあり、プレッシャーを感じていないと言えば嘘になります。今年まではシード権を獲得することが目標だったけれど、次は6位という順位を上回ることが最低の目標です。早稲田大学・駒沢大学・東洋大学の3強を一つでも破ることも目標にしています。目標達成のために、記録会などの小さな大会でも3強には負けない気持ちで取り組んできました」

――シード権を獲得したことにより、特別な練習はしているのですか？

「基本的な練習のスタイルは変えていません。記録会を含め、10月の出雲駅伝・11月の全日本大学駅伝・1月の箱根駅伝と夏以降毎月イベントがありました」

――どのような練習をしているのですか？

「ハーフマラソンくらいの距離を走り、スタミナをつける練習を常に行っています。箱根駅伝の5区の上りと6区の下りについては別のトレーニングもしています。長い距離を走ることができるスタミナをつけることが目的です。また、学校の近くの鎌北湖周辺には山道もあり、5区と似たようなコースになっていて良い練習になります」

――シード権が決まってからのスケジュールは？

「春はトラックで練習をし、スピードを強化するための練習をしました。夏は強化合宿を北海道と長野で行いました。合宿に限らず1日30㌔以上、月間1000㌔近く走っています。秋になると記録会など実戦形式になります。11月24日から12月4日まで千葉県の白子で合宿です」

――今年はどのようなチームになりますか？

「箱根駅伝の経験者が7名、1年生が2名、箱根駅伝のために育成した選手が5～6名と、とても安定力のあるチームになっています」

――今年の注目の選手はいますか？

「1人ではなく全体的に力がついてきています。1年生にも数名いますが、このことで上級生が刺激されてもいい影響を受けていると思います」

――出雲駅伝と全日本大学駅伝の結果についてどう思いますか？

「出雲は13位、全日本は11位でしたが、全日本のときはスタートからいいペースが作れず、悪い状態がずっと続いていましたが、順位を上げて最終的に11位となりました。悪い状態から順位を上げることができたということは、とてもいい経験ができたのではないかと思います」

■くしべ・せいじ

1971年11月11日	山口県出身
90年4月	早稲田大学人間科学部スポーツ学科入学
92年	全日本大学選手権大会10000㍍優勝
93年	第69回東京箱根間往復大学駅伝競走1区区間賞（区間新）
2001年4月	城西大学駅伝部コーチ就任
04年	城西大学理学部保健体育助手
05年	城西大学経営学部マネジメント総合学科講師
10年	〃　准教授

■自己記録

5000㍍	13分41秒1
10000㍍	28分16秒79
3000㍍障害	8分38秒95
マラソン	2時間11分22秒

選手に贈る エール

森本　雍憲
学長

城西大学は創立49年を迎えました。男子駅伝部の箱根での快走は、このキャンパスに活気をもたらしました。シード権獲得での出場は素晴らしいことです。地元・城西市も盛り上がりました。今回も大学だけではなく多くの市民が応援してくれるでしょう。城西大学の「付加価値」を高める結果を期待しています。

佐藤鉄也
同窓会会長

駅伝は人生縮図そのものであると感じています。たくさん好きである女子・男子駅伝とも好きであるから個人的にも、伊勢にも、東京にも出掛けて応援しに行く。陸上部の箱根駅伝は第1区間約20㌔で10区間ある。大学の誇りを胸に理念と学風と伝統を受け継ぎながら、無心で自己と戦い、つなぎ、つなぎしながら走っている姿に感動し応援する。明治神宮を抜ける瞬間、一心不乱に応援する。ファイト!! 箱根駅伝のスタートの合図だ!! ガンバレ 城西大学!!

木下高志
父母後援会長
埼玉県議

城戸市では、伊利駅前市長を団長とする城戸市民応援団が結成され、現地運営も城西大学応援隊がたなびき出会が駅伝ムードに包まれてまいりました。父母後援会としても会員はもとより地元城戸市とも連携をとり万全の一体応援をさせていただきます。念願のシード権を獲得した今回が正念場。箱根を制するのは城西であり！

白幡　晶
副学長
男子駅伝部部長

子駅伝部が創部されたのは、2001年です。この10年間で箱根駅伝に出場8回を数えるのは素晴らしいことです。選手たちはこれに甘んじることなく「箱根」を目指してさらなる飛躍に邁進いたします。

井上悦夫
男子駅伝部
後援会会長

城西大学の名声を高め、学内を盛り上げるには、男子駅伝部に活躍してもらおうあれから10年経ちます。3年目で初出場、そして前回シード権獲得の力走、と期待通りの活躍をしてくれました。今回も練習で見せる再現通りの走りを見せてくれれば、前回の6位を上回る結果を出してくれるでしょう。

岡崎　雄大　学友会中央委員長

男子駅伝部の皆さん、箱根駅伝への出場おめでとうございます。今年は初のシード権を獲得したということで、栄冠を持って帰ってきたと思います。前回箱根駅伝で城西大学の強さを発揮し、今度はシード権の常連校となることを願っています。選手皆さんの素晴らしい活躍に期待しています！

■取材スタッフ
編集長　経営学部3年　千葉　史典
副編集長　経営学部2年　原　慧介
経営学部3年　安富英里香
経営学部2年　寺田　登
経営学部2年　森　優紀
経営学部2年　田田　香里
■監修・アドバイザー
副学長　草野　素雄
経営学部助教　土江　寛裕
経営学部助教　山口理恵子
■記者募集
取材や記事の書き方は基本から学べます。興味がある学生、やる気がある学生、留学生も大歓迎です。連絡はこちらまで。josaisports@josai.ac.jp